



平成29年度事業報告および平成30年度の取組について

平成29年度事業報告

1 エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業

(1) 事業概要と現在の事業者数

秋田市と連携してエイジフレンドリーシティの実現に取り組んでいこうとする事業者・団体等を「エイジフレンドリーパートナー」として登録する制度であり、平成30年3月19日現在で81事業者・団体が登録をしている。

(2) 事業報告

ア 秋田市エイジフレンドリーパートナー研修会の開催

日 時：平成29年10月19日

会 場：秋田ビューホテル

参加者：125名（パートナー事業者・団体：51名（42社）、一般：74名）



市民、民間企業、教育機関、行政機関の連携による、超高齢社会のニーズに対応したまちづくりについての知識と意識の向上を目的に開催し、パートナー事業者・団体のほか、超高齢社会におけるビジネスや地域社会づくりに関心のある市民が参加した。

○第1部 秋田市エイジフレンドリーパートナー取組事例発表

他社が実施するエイジフレンドリーな取組内容を学び、自社の取組の更なる充実化を図るため、エイジフレンドリーパートナー2社が、自社の取組内容の発表を行った。

秋田銀行の取組

「あきぎん長生き学校」でアクティブシニアを創出し、「秋田プラチナタウン研究会」で高齢者が元気に暮らせるコミュニティづくりを推進することにより、高齢者の社会参加の促進と、高齢者が長く活躍する地域社会の実現を図るとともに、消費拡大による地域経済の活性化を図る取組を行っている。



秋田銀行経営企画部 小濱 俊氏

秋田キャッスルホテルの取組

車いす使用のかたからのご意見に基づいた多目的トイレの改修、従業員による認知症サポーター養成講座の受講、高齢者から子どもまで三世代が楽しめるイベントの企画などに取り組み、ハード、ソフト両面におけるバリアフリーが評価され、平成28年秋田県バリアフリー推進賞の「活動部門」を受賞した。



秋田キャッスルホテル営業部宴会セールス課支配人 加藤 乃武雄氏

○第2部 基調講演「産学官民による長寿社会のまちづくり」



講師：秋山 弘子氏（東京大学高齢社会総合研究機構（以下「東大 IOG」という。）特任教授）

内容：東大 IOG が携わる千葉県柏市におけるまちづくりや、神奈川県鎌倉市の「鎌倉リビング・ラボ」（※）を事例に、長寿社会の課題と対策および産学官民の連携の重要性について講演を行った。

※リビング・ラボとは

産学官民が協働し、暮らしを豊かにするための製品やサービスを生み出し、より良いものにしていくために共創する場および活動のこと。

○参加者の声

「（基調講演は）長寿社会の現状の再認識と将来への備え方について考える機会となった」、「他パートナーの取組事例が大変参考になった。県外の取組事例も知りたい」、「（リビング・ラボについて）高齢のお客様がどのようなモノを使いやすいかを訊きたい」など。

イ 秋田市エイジフレンドリーパートナー交流会の開催

日 時：平成30年2月27日

会 場：秋田市役所

参加者：83名（パートナー事業者・団体：41名
（34社）、そのほか事業者・団体：
17名（15社）、一般：25名）



高齢者にやさしい地域社会づくりの推進にあたり、産学官民が協働し、超高齢社会における地域課題の解決を図る手法について具体的な事例を通し理解を深めるとともに、エイジフレンドリーパートナーをはじめとする参加者

同士のつながりをつくることを目的に開催した。

○基調講演「人の視点から考える使いやすさのデザイン：超高齢社会での挑戦」



講師：原田 悦子氏（「みんなの使いやすさラボ」
研究代表者）

内容：豊かな超高齢社会を目指し、高齢者・企業・大学の協働により、「モノの使いやすさを高める」活動を行う、「みんなの使いやすさラボ」（つくば型リビング・ラボ）について講演を行った。

○参加者の声

「今回のように、他県事例紹介＋（行政、市民との）意見交換会を継続してほしいと思います」、「原田先生の講演を聴いて、これまでの考え方が変わりました。高齢者に良いサービスを提供しようとして案が出なかったのですが、高齢者と共に考えるという視点が欠けていました。一方的ではダメでした」「（リビング・ラボを）建物の設計に活かしたい」など

(3) 総括と課題

新規パートナー登録数は順調に伸びているが、事業４年目を迎える来年度は、これまで以上に広い業種にわたり新規パートナーを増やすとともに、登録後の取組実施においてもさらなる活性化を図りたい。そのため、積極的なPR活動に加え、生涯現役の促進や産学官民協働によるシニアビジネス創出等にもつながる新たなインセンティブの導入を検討する必要がある。

併せて、今年度開催したパートナー研修会および交流会を通し、パートナー同士の交流およびリビング・ラボに対するニーズが見えたため、来年度改めて交流を図る機会を設けるとともに、パートナー同士の連携をリビング・ラボの試験的活動にも活かした展開を図る。

2 高齢者コミュニティ活動創出・支援事業

(1) (株)studio-Lの取組について

ア 「あきたで長く楽しく暮らす方法を見つける研究室」の開催

平成28年度に立ち上げた20代から80代までの幅広い世代が一緒になって、住み慣れた地域で長く・楽しく・自分らしく暮らすための方法を考える研究室において「あきた年の差フレンズ部」（以下「年の差フレンズ部」という。）を設置。



ワークショップを8回開催し、今後の活動を担う人材の育成や今後の具体的な活動方法について話し合った。

- ・参加人数：43名（市職員、老人クラブや地域福祉協力員、会社員、社会福祉法人職員など）

イ ハンドブックの作成

「年の差フレンズ部」の新たな活動参加者を勧誘するほか、活動を通じて、年の差のある友人を持つことの意義や楽しさ、効果等を広く市民に周知するためのツールとして、「あきた年の差フレンズハンドブック」を作成。

※ハンドブックの完成：3月下旬／2,000部予定

ウ ワorkshop終了後の「年の差フレンズ部」の今後について

- (ア) 任意の市民活動グループとして自主活動を継続する。
 - (イ) 共通の関心や目的で結びついているため、参加メンバーの年齢層は広く、かつ、フラットで良好な関係が構築されており、今後も既存の住民活動にはない活動が期待される。
 - (ウ) 着実な活動を担保するため、「年の差フレンズ部」の組織化を促し、市も積極的に支援していく。
 - (エ) 新たに作成するハンドブックを活用し、活動意義の周知、活動そのものの楽しさを積極的に発信していく。

(2) 東京大学高齢社会総合研究機構（東大IOG）の取組について

東大IOGの学術支援のもと、平成27年度から地域での支え合い活動の創出に向けた住民主体による体制を構築し、生活支援コーディネーターの配置や、協議体の設置などを進めている。

【これまでに設置した協議体】

平成28年度 泉・御所野・河辺・雄和

平成29年度 八橋・川尻・下新城・旭川

※昨年度設置した4地区の主な取組内容は、冊子「秋田市暮らしに役立つサービス」64・65ページに掲載

(3) 総括と課題

平成28年度から開催した(株)studio-Lによるワークショップ参加者には、高齢者のほか、市職員、NPO活動団体代表、生活支援コーディネーターなど、今後「年の差フレンズ部」として中心的に活動していくことが期待される人材の参加を得ることができた。

今後は、「年の差フレンズ部」の自主活動を通して、このような活動が市内

全域において広がる仕組みづくりをさらに進めていく。

東大IOGの学術支援による地域の支え合い体制づくりについては、来年度、市内18か所全ての地域包括圏域において、協議体が設置される予定であり、引き続き東大IOGの学術支援のもと、住民主体のワークショップ等の実施により、各地域のニーズを踏まえた様々な活動へと発展させ、住民主体による支え合いづくりを進めていく。

3 エイジフレンドリーシティ普及啓発事業

超高齢社会における様々な課題を共有しながら、行政と市民協働によるエイジフレンドリーシティの実現をさらに推進するため、以下のとおり、普及啓発を実施した。

(1) エイジフレンドリーシティカレッジリレーセミナーについて

| 開催日 | テーマ・講師 | 分野 | 来場者数 |
|---------------|--|--------------|------------|
| 11月14日 | 「人生100年時代をどう生きるか ～定年後 50歳からの生き方～」 講師：楠木 新 氏（楠木ライフ&キャリア 研究所代表） | セカンドライフの過ごし方 | 106名 |
| 3月26日 開催予定 | 「持続可能な長寿社会へ向けてICTができること」 講師：檜山 敦 氏（東京大学先端科学技術 研究センター専任講師） | 新しい働き方 | 定員 150名 |

(2) エイジフレンドリーシティ通信について

作成部数：139,000部（全戸配布）

内 容：人生100年時代に対応する「生涯現役社会」
の実現を目指した本市の取組等について掲載



(3) シニア映画祭について

高齢者が身近な楽しみを増やし、外出する機会づくりとなるよう、良質な映画を気軽に鑑賞できるイベント「シニア映画祭」の開催を今年度から企画し、毎回多くの来場者でにぎわい、高齢者の外出促進につながる事業となった。

6月上映作品および観客動員数（チケット売り上げ枚数）：ルミエール秋田

| 上映日 | 上映作品 | 500円 | 800円 | 合計 |
|-----|------------|------|------|-----|
| 6日 | 幸福の黄色いハンカチ | 85 | 22 | 107 |
| 13日 | 武士の家計簿 | 136 | 49 | 185 |
| 20日 | わが母の記 | 185 | 34 | 219 |
| 27日 | 日本のいちばん長い日 | 161 | 42 | 203 |



9月上映作品および観客動員数（チケット売り上げ枚数）：ルミエール秋田

| 上映日 | 上映作品 | 500円 | 800円 | 合計 |
|-----|-----------|------|------|-----|
| 6日 | 超高速！参勤交代 | 160 | 20 | 180 |
| 13日 | 終戦のエンペラー | 161 | 19 | 180 |
| 20日 | 殿、利息でござる！ | 159 | 21 | 180 |
| 27日 | 北のカナリアたち | 159 | 21 | 180 |



(4) エイジフレンドリー竿燈および竿燈まつり用屋台看板の作製について



【作製内容】

- ・大若1本、小若1本
(シンボルマークと「エイジフレンドリーシティ秋田」の文字)
- ・竿燈まつり用屋台へ看板設置

(5) うちわの作製について

【作製内容】

- ・エイジフレンドリーパートナー事業者の広告入りうちわ 5,000本
- ・広告の掲載を希望する事業者を募集し、申し込みを頂いた47社の事業者名を掲載



(6) エイジフレンドリーパネル展について

【市役所会場】

開催期間：平成29年9月5日～同月13日

【中央図書館明德館会場】

開催期間：平成29年9月15日～同月29日



(7) 総括と課題

本年度のエイジフレンドリーシティカレッジについては、人生100年時代におけるこれからの生き方について考えてもらうきっかけとなるようなテーマを取り上げた。第1回の楠木新氏の講演には、幅広い年齢層から参加いただき、セカンドライフの過ごし方について、非常に関心が高いことが分かった。

また、通信については、全戸配布を行ったことで、本市がこれまで取り組んできた「エイジフレンドリーシティ」について広く市民にPRすることができたと同時に、様々な内容のご意見や問い合わせを通じて、本市が今後、力を入れて取り組まなければならない課題も見えてきた。

そのほかにも、本年度は新たにエイジフレンドリー竿燈やうちわを作製するとともに、パネル展を開催するなど、普及啓発に力を入れることができたことから、引き続き、新たな周知方法を探りながら取り組んでいく。

4 高齢者生活支援情報提供事業

(1) 冊子「暮らしに役立つサービス」の発行

介護保険制度に基づく公的機関や専門職によるサービス（フォーマルサービス）以外の支援に関する情報を集約・発信することにより、高齢者を始めとする全ての市民が、生活支援に関わる様々なサービスの情報を得やすい環境を整備するため、昨年度の内容を更新し、25,000部発行した。

市の施設や地域包括支援センター等に設置しているほか、関係者に配布し活用を図っている。

(2) 総括と課題

本冊子は、高齢者とその家族をはじめ、高齢者を対象とした相談業務に携わる方々にも好評である。本年度は、昨年度の内容にプラスして、秋田県警察からのお知らせや、地域による支え合いの取組事例について紹介するなど、市民にとってより身近な情報を掲載した。冊子を必要とする方に適切に配布できるよう、広報あきたやホームページを活用しての周知に努めるほか、高齢者やその家族が利用する公共施設や病院をはじめ、各地域包括支援センターなどの相談窓口十分に設置するよう努める。

平成30年度の取組について

1 エイジフレンドリーシティ推進事業について

(1) 東京大学高齢社会総合研究機構（東大DOG）との共同研究

エイジフレンドリーシティの実現に向け、第2次行動計画の推進、在宅医療・介護連携を含む地域ケアシステムの推進、地域での多様な主体による支えあい体制構築への支援などのほか、「人生100年時代」に対応する生涯現役社会の実現に向けた取組について、共同研究を行う。

(2) IFA（国際高齢者団体連盟）第14回国際会議への出席

2018年8月8日～10日にカナダ・トロントで開催される第14回IFA国際会議について、主催者であるIFAから秋田市長に参加および発表の依頼があった。エイジフレンドリーシティの実現に国内で先行して取り組んできた本市の取組について発表を行う予定である。

2 エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業について

(1) エイジフレンドリーパートナー制度のPR活動の推進

ホームページや広報あきた、エイジフレンドリーシティ通信等さまざまな媒体を通じた情報発信に加え、各団体や個別事業者へのPR活動を積極的に展開し、幅広い業種への周知を図る。

(2) パートナーを対象とした研修会

産学官民の共創やシニアビジネスに関する知識を深めるとともに、意見交換などを通し、他事業者・団体との連携強化を図る機会とする。

(3) 試験的なモニタリング活動の実施

市民（主に高齢者）が、パートナーをはじめとする企業・団体の製品・サービスを試用した意見等を企業側に伝え、企業側が新たな気づきを得ることにより、高齢者にやさしい製品・サービスづくりにつながる試験的な機会を設ける。

3 エイジフレンドリーシティ普及啓発事業

平成30年度は、引き続き、リレーセミナーの開催、通信の全戸配布、竿燈まつり等でのPR活動を行うとともに、シニア映画祭の内容をさらに充実させる。

【シニア映画祭】

平成30年度は7月と10月の毎週火曜日の午前、午後の2回上映（月8回、

計16回)を予定。コインバス資格証明証持参の場合と65歳以上で障害者手帳を持参の場合は、料金を割引する予定であり、さらなる参加者が見込まれる。

また、上映前の待ち時間を利用して、簡単にできる介護予防運動や、保健師等による口腔ケアの講話など、映画だけではない健康サービスも提供する。

4 高齢者生活支援情報提供事業

引き続き、「暮らしに役立つサービス」の内容を更新し、25,000部を発行する。

5 生涯現役社会の実現に向けた取組

健康で生きがいを持ち続けながら生涯を送ることができる「生涯現役社会」の実現に向けて、高齢者の能力や意欲に応じた就労や社会参加を促進する施策・事業の推進を目指す。